日本語訳は勉強すればするほど…

D組　モントヤ・ファン

私が日本語を勉強し始めたのはもう三年前のことです。始めは簡単な単語や文法も全然知らなかったので、日本語で私の考えが伝えられませんでした。当時私はその日本語能力の程度で考えを翻訳できる訳がないと当然思いました。しかし、私が思ったことに反して日本語の勉強を続けるにつれて伝えられない考えは逆に多くなってしまいました。

なぜならば、実は私が日本語を習うのは翻訳が上手になるということだと思っていたからです。けれども、日本と西洋は言語だけでなく文化も違います。その中でも文学や宗教や歴史などの方が違いが大きいです。それで、西洋人として私は翻訳できない考えが多いです。ということは私が日本語で話している時はつい西洋文明の文化によって考えているということです。

例えば、先日私はある日本語のテストの結

果はやっぱり「ピュロスの勝利」だと思いました。これを聴くと日本人は多分大勝利だったと思うでしょう。しかし、ピュロスの勝利というのは本当の勝利という意味ではありません。紀元前3世紀に、古代ギリシアのエペイロス王はローマと戦争をしていて、結局ローマを倒しましたが、彼自身の軍隊を犠牲にして勝ちました。それで、現代西洋でピュロスの勝利と言えば「損害が大きく、得るものが少ない勝利」という意味です。

確かにどんな言語でも訳しにくいことわざや慣用語句があるのは普通のことです。しかし、実は前の例文はことわざでなく、ただの文化的な言及にすぎません。ところで、言及によって難しい考えを簡単に説明することは「説明の近道」ということです。説明の近道はことわざに似ていますが、実際に言葉というより考えを結びます。それゆえ説明の近道はことわざよりずっと多くて、誰でも作成することができるので無数と言っても言い過ぎ

ではありません。便利でしょう。しかし大変なことは西洋文明か日本によって全然違うことです。

　先ず、西洋文明は古代ギリシアから影響を受けました。日本が中国から漢字だけでなく文化も伝えられたように西洋も古代ギリシアからアルファベットだけでなく文化や常識や考え方など伝えられました。現代でも西洋人の子供達は一般に学校でギリシャ神話や寓話や哲学などを学びます。

　それで、西洋人にとってギリシャ文学は周知になりました。その中には短くて簡単な寓話もあれば、非常に長い神話や複雑な哲学もあり、例えばイソップ寓話やホメーロスによって作られたイーリアスやプラトンの対話などです。西洋人は普段このギリシャ文学を読むので、日常会話から重要な演説までそれらによく言及して「説明の近道」として使用します。

　第二に、日本が神道や仏教の教えから影響

を受けたのに対して西洋文明はキリスト教から影響を受けました。現代政教分離原則のおかげで西洋人の子供達は学校でキリスト教の授業を学ばなくてもいいです。とはいうものの、キリスト教の歴史は2000年以上で、現代西洋ではキリスト教の影響はまだ強いです。無神論者である私は西洋の無神論者でもキリスト教から影響を受けたのを認める外ありません。

それゆえ西洋人が考えを伝えるには聖書に言及して「説明の近道」としてよく使用します。特にイエス・キリストのたとえ話ほど西洋人によく使われている説明の近道は外にないのではないかと思います。さらに、無神論者として私は旧約聖書のコヘレトの言葉やジョン・ミルトンによって書かれた失楽園という叙事詩が気に入っているのでそれらによく言及します。

第三に、西洋文明と日本文明の歴史は主に別々に経過しました。確かに日本は16世紀

から欧州諸国と多少商業があったんですが、20世紀まで国際交流はとにかく少なかったんです。それで一方では日本人は西洋文明史は詳しく知らないし、他方では西洋人は日本史は全く知りません。

世界中で「歴史からの教訓」という表現がよく言われますが、歴史とその教訓は文明や国によって変わるでしょう。例えば戦争の教訓と言えば中国人や日本人は「孫子」を思い出すのに対して西洋人はマキャヴェッリによって書かれた君主論の方を思い出します。

今まで私は日本語を学ぶ西洋人学生として書いてきましたが、きっと外国にいる日本人学生もこのような経験があるでしょう。日本の文化遺産は数多くあるし、日本文化の「説明の近道」も少なくないはずです。私も日本に来て日本語の勉強を続ける一方で、日本史や日本文学などを習うにつれてだんだん日本文化の「説明の近道」も習ってきましたが、これは日本語より難しいことです。